

令和 7 年度

鳥羽市地域課題解決調査研究事業補助金

調査研究 成果書

お盆合宿 in 答志島 2025

主催：

答志島和具 お盆合宿実行委員会



目次

- 1 調査研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
 - 1.1 解決しようとしている地域課題の内容
 - 1.2 この地域課題を解決することで期待される効果
- 2 調査内容・スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4
- 3 調査研究の様子・活動内容・・・・・・・・・・・・ p.5～9
- 4 調査研究を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・ p.10～11
 - 4.1 調査研究により明確になった課題
 - 4.2 課題解決のための提言

1. 調査研究の目的

1.1 解決しようとしている地域課題の内容

A. 島の伝統行事の存続危機

答志島和具では、現在も伝統的な漁村ならではのお盆行事が行われているが、集落の高齢化による担い手不足のために、お盆行事の現状の形での存続が危ぶまれている状況である。

B. 島の大学生年代の不足

答志島には大学が無いため、子供たちを始めとする島の人々が、大学生と関わる機会が非常に限られている。そのため、島の子供たちが進路を考えたり、学問と触れ合う上での障壁となっていると考えられる。

1.2 この地域課題を解決することで期待される効果

A. 島の伝統行事の維持

伝統的なお盆行事が維持されることにより、答志島の人々や島に関わる人々の答志島へ愛着や帰属意識が育まれ、人口流出に歯止めがかかると考えられる。

B. 島へ関わる大学生の増加

お盆行事に関わった大学生が今後も継続的に島へ来て島の人々と関わることにより、子供たちが様々な専門分野の大学生と出会うことができ、自らの将来を考える上で良い影響を与えると考えられる。

2. 調査内容・スケジュール

《調査内容》

全国から募集した大学生を島へ招待し、整備された空き家で集団生活をしながら、答志島和具の様々なお盆行事の準備のお手伝い・参加を行う。また、その隙間時間で島の人々と関わったり、島の散策を行ったりすることで、始めて島に来る大学生が答志島の魅力を知る機会を設ける。

《スケジュール》

○調査研究の実施予定期間：2025/8/12～8/16

8/12 櫓組上げ・精霊船竹切り・夕涼み会屋台運営

8/13 史跡：首塚と胴塚の砂利補充作業・ねやこや夏祭りスタッフ

8/14 火入れ参加・盆踊り一日目

8/15 火入れ参加・火入れ後片付け・精霊船作り・盆踊り二日目

8/16 精霊船作り・精霊船流し・ビンゴ大会スタッフ

3. 調査研究の様子・活動内容

8/12



○櫓組み上げ

盆踊りで使用する櫓の組み上げの補助。朝方からの力仕事であったため、参加者の男性を中心に補助を行った。その間、女性参加者は櫓の飾りつけを行った。



○精霊船竹切り

精霊船の材料である竹を竹林に切りに行く作業の補助。日中の屋外作業であり人手のいる作業であった。女子禁制の作業であったため、参加者の男性のみで補助を行った。



○夕涼み会

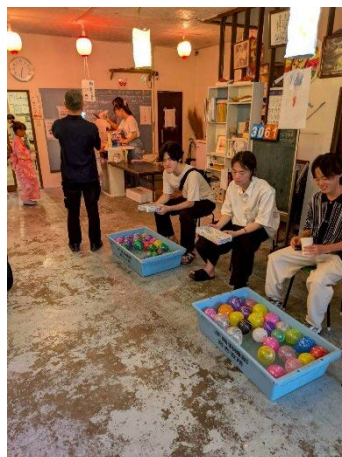
答志小学校グラウンドで行われる答志島三集落合同での夕涼み会で、和具町内会と保育所の屋台のお手伝い。誘導、チケット・景品交換までを手分けして行った。

8/13



○史跡：首塚・胴塚の砂利補充作業

和具の史跡である九鬼嘉隆の首塚・胴塚の年一回の砂利補充作業。浜から集めてきた砂利を高台の首塚・胴塚まで運搬し、敷き詰める重労働。町内会の方に車を出してもらい、合宿参加者が中心的に作業を行った。



○ねやこや夏祭りスタッフ

ねやこや主催のねやこや夏祭りにおいて、各屋台のスタッフとして補助を行った。合宿参加者と島の子供たちの盛んな交流も見られた。

8/14



○火入れ参加

朝6時から行われる集落内一斉の墓参りである火入れに参加した。合宿参加者全員で、初盆の家に線香をあげてお参りをした。



○盆踊り一日目

夜に行われる盆踊りに、町内会から貸していただいた浴衣を着て全員で参加した。また盆踊り終了後、ペットボトルや空き缶の回収なども行った。

8/15



○火入れ参加、火入れ後片付け

前日に引き続き、全員で墓参りを行った。初盆の家に加え、戦没者の墓や九鬼義隆の墓参りも行った。また、火入れ後には墓の清掃の補助も行った。



○施餓鬼後片付け

潮音寺で行われる施餓鬼の見学をし、後片付けの補助を行った。



○精霊船作り

12日に切り出した竹を使って、竹編みの精霊船を作る作業の補助。町内会の方々に教えてもらいながら、積極的に参加した。



○盆踊り二日目

前日に引き続き盆踊りに参加、そして後片付けも行った。

8/16



○精霊船飾り付け

前日に作った精霊船の飾りつけの補助。
朝6時から、倉庫から九鬼の館まで運搬
するところから参加した。前日の作業と
も合わせて、合宿参加者が島の独自の文
化を体験する機会となった。



○精霊船流し

制作した精霊船を漁船に乗せ、
沖に流しに行く。乗船できる人
数の関係で、合宿参加者からは
代表で二人が乗船し、補助を行
った。



○ビンゴ大会スタッフ

精霊船流しの時間で九鬼の館で行われる
ビンゴ大会でスタッフとして補助を行っ
た。

4. 調査研究を終えて

4.1 調査研究により明確になった課題

本調査研究における活動を通じて、活動以前から認識されていた課題に加え、新たに具体的に明らかとなった課題を以下に示す。

I. 活動以前から明確であった課題

1. 島の伝統行事の存続危機

答志島和具では、現在も漁村特有のお盆行事が継続している。しかし、集落の高齢化に伴う担い手不足により、従来の形での行事の存続が危ぶまれている。

2. 島の大学生年代の不足

答志島には大学が存在せず、島の子供たちをはじめとする住民が大学生と関わる機会は極めて限られている。その結果、子供たちが進路を考える際や学問に触れる上での障壁となっている。

II. 活動を踏まえて明確になった課題

1. 島の伝統行事の存続危機（当事者の意識に関わる側面）

担い手不足に加え、固定化された限られたメンバーが毎年、体に大きな負担を強いる行事を担っている。このことにより当事者のモチベーションが低下し、担い手不足以前の段階で行事自体が縮小してしまう危険性があることが、島の方々からの聞き取りによって明らかになった。

2. 島の大学生年代の不足（子供にとってだけでなく広範な意味で）

大学生年代は、体力のある若者でありながら一定の社会的存在として機能する重要な層である。この世代が島に不足していることにより、①お盆行事における賑わいが十分に生まれず規模縮小につながる、②子供の相手ができる体力のある大人が不足する、という状況が見られる。すなわち、子供と大人の中間に位置する大学生年代の存在が地域社会において重要であることが明確になった。

4.2 課題解決のための提言

本調査研究を通じて明らかとなった課題、すなわち①答志島和具における伝統行事の担い手不足および当事者のモチベーション低下による行事縮小の危機、②大学生年代の不足による地域活力や子供たちの成長機会の制約、は地域の持続可能性に直結する重要な課題である。これらを解決するためには、短期的な施策よりも、継続性を重視した仕組みづく

りが不可欠である。

その具体的方向性として、本事業で実施した「お盆合宿」プログラムを安定的に毎年継続していくことが最も有効と考える。大学生が集団生活を通して地域行事に参加し、島の人々と交流する本取り組みは、伝統行事の担い手補完や地域の世代間交流を促す実践的なモデルとなり得る。

さらに、この取り組みを一層発展させるために、以下の二点を提言する。

1. 全国規模での参加者募集の強化

毎年、多くの「初めての参加者」が継続的に訪れる仕組みを構築することで、新たな人材が行事に加わり、島の子供たちとの交流の幅も広がる。これにより、地域外の若者にとっても答志島の魅力を知る契機となる。

2. 既参加者が再訪できる基盤整備

一度参加した人が、いつでも気軽に島を再訪できる体制を整えることで、単発の関わりに留まらず、地域との中長期的な関係性を構築することが可能となる。これにより、担い手不足の慢性化を防ぐとともに、行事や地域活動の安定的な担い手層を形成できる。

以上の取組を推進することで、答志島和具のお盆行事の存続と地域社会の活性化に資する持続的な基盤が築かれると考える。



▲ねやこや運営委員会より表彰して頂いた様子